

# 令和年度 第1回 学校教育相談研修会報告書

## (静岡県高等学校教育相談教育研究会 冬季研究大会)

学校教育相談専門委員 浜松修学舎高等学校 夏目雅世

講師 菅野 順子先生 コミュニケーションアドバイザー  
(宮城教育大学副学長 故 菅野仁『友だち幻想』著者の奥様)  
演題 「『友だち幻想』著者の想いと子どもたちへのメッセージ」  
日時 令和元年11月29日(金) 13:45~16:00  
場所 沼津市立図書館 視聴覚ホール  
参加者 11名

講師菅野順子氏は、夫であった故菅野仁氏(元宮城教育大学副学長 社会学者)が伝えたかった内容を、その著書「友だち幻想」をベースに、約2時間切々と講演された。

菅野仁氏は、将来を嘱望されながらも2016年、大腸がんのため若くしてこの世を去った。しかし、2008年に初版された「友だち幻想」が最近再注目されたこともあり、今回奥様を講師として招いた。

### ◆「友だち幻想」と「教育幻想」について

「みんな仲良く」「社会性が大切」等、大人は[つながり]を子どもたちに強要する。そして子どもたちも過敏に反応し、「群れる」ことで不安を解消している。

しかし、過剰な[つながり]を重視することは、息苦しさをもたらしやがては疲弊していくと著者は警鐘している。

どんなに心を許し信頼できる人でも、「異質性を持った他者」であることを基本とし、過剰な期待を持つことはやめ、どんなに親しくなっても他者であることを意識した上で、信頼関係を作っていくことが大切だと述べている。

確かに人間一人ひとり価値観や考え方が異なることは誰もが理解している。しかし、頭で理解していても、行動につながっていかないのも事実である。大人の世界でも、相手に自分の価値観を押し付けることでトラブルが発生している。

子どもたちに友だちは自分とは違う考え方で、コントロールできないこと、また適度な距離の取り方について、分かりやすく伝えていかなければならないと感じた。

もう一つの菅野氏の代表的な著書である「教育幻想」の中で、理想的な教師の在り方を提言している。「クールティーチャーのすすめ」つまり教育に対する情熱は人一倍持ちながら、しかし客観的な情報を分析し、冷静に指導して欲しいと…。

また、「心の教育」以上に必要なものは「行いの教育」だとも述べている。人の心(内面や心情)を教育するより、人の「ふるまい方」や「行為」を問題視し、制御するほうがはるかに重要で現実的にも有効である。つまり、心を入れ替えるのではなく、行いを修正することによって、子どもたちの内面のマイナスの感情をコントロールしようとするのが著者の考え方である。

#### ◆所感

著者の座右の銘に「ピュアネスのためのリアリズムを」という言葉がある。ピュアな理想がなければ教育はできないが、理想だけではダメで、現実のシビアさや冷静に認識するリアリズムの視線を持って、自分自身のピュアネスを子どもたちに伝えていくという意味である。

いじめ、不登校、発達障害、虐待等、学校現場は多くの問題が山積し、教師に求められる役割も多様化している。また、子どもたち自身も、人間関係を築きながら生きていくことに疲弊している。

そんな子どもたちに対してこれからの教育は、現実のシビアさや理想と現実の折り合いのつけ方について、精神論ではなく具体的な「ふるまい方」、つまり「生きる力」を教えていかなければならないと改めて痛感した。